

新潟県中越地域

■ 雪国型ワークシェアリング導入の取組

少雪地域と多雪地域の事業者が協業体制を構築し、労働力の確保・上乗せと適期施業により素材生産量の増大を目指す

□ 現状と課題

- ▼主伐可能な高齢級スギ人工林が多く存在する当地域では、伐採や搬出作業を担う労働力不足が顕在化している。また、当地域の平野・山間部は**特別豪雪地帯**に指定されており、冬期間の豪雪や湿雪が障害となり、年間を通じた安定的な木材生産が困難となっている。※写真1
- ▼このため、地域内の大口需要先である木質バイオマス発電所や製材所への木材供給が滞っている現状がある。
- ▼こうしたことから、年間を通じた安定的な木材生産とそれを担う林業労働力の確保に課題を抱えている。

□ アプローチ

- ▼例えば、少雪地域と多雪地域の事業者が協業する体制を構築し、山間部は夏場に集中して、冬場は雪の少ない海岸部を中心に、森林技術員を多く配置し、主伐・間伐施業を行うことで、木材生産の増大と平準化につながるものと考えている。
- ▼これまでも森林組合間では繁忙期において、互いの労働力を融通し合う協力体制はできているが、加えて森林組合と民間事業者など、新たな体制を構築することが、地域全体の底上げにつながる重要なポイントと考え、事業者の協業体制構築に向けた支援策(**雪国型ワークシェアリングの導入**)に取組中。
- ▼支援内容は、労務輸送に係る高速道利用料の実費支給等。(但し、一定の実施要件、支援上限額の設定等あり)

□ 取組の効果・成果

- ▼H30実績
 - K森林組合+(株)F: 利用間伐 8.69ha(9月~11月)
 - K森林組合+(株)M: 利用間伐 8.15ha(1月~3月)※写真2
- ▼R1実績
 - K森林組合+(株)F: 利用間伐 8.14ha(10月~1月)
- ▼K森林組合では**慢性的労務不足**のため、年間事業計画の達成に不透明な部分があったが、本取組により予定どおり実施。

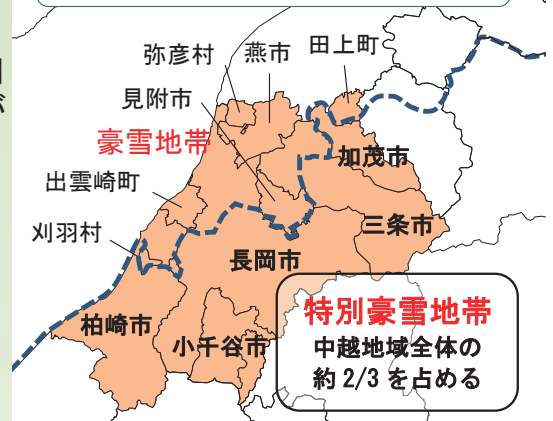
□ 成功要因

- ▼**同程度の技術レベル**を有する技術員を確保するため、協業体制を組む事業者を広く県内全域から選定可能としたこと。
- ▼多雪地域の事業者にとっては、**冬期間を含む通年雇用化**に課題があることから、その解決策の糸口として活用できたこと。

□ 他地域でも応用できる考え方

- ▼中越地域は、森林組合以外の林業担い手が少ない地域であり、近隣の民間事業者との協業体制の構築は困難であった。
- ▼広域的に様々な事業者とのマッチングの可能性が広がることで、**即効性を有する**担い手不足の解消策として期待できる。

林業成長産業化「中越地域」のエリア



中越地域の**素材生産量**の推移
(11市町村の合計値: 県長岡地域振興局調べ)

